

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	泌尿器科 この10年
別タイトル	Department of Urology, Toho University School of Medicine: 10 years of Urology
作成者(著者)	山辺,史人
公開者	東邦大学医学会
発行日	2023.06.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 70(2). p.81 82.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2022 052
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD68601586

教室(診療科)紹介(139)

泌尿器科 この10年

泌尿器科学講座(大森)

教授：中島耕一
永尾光一
准教授：小林秀行
講師：三井要造
医局長：山辺史人

はじめに

東邦大学泌尿器科学講座は平成24年にも本誌の教室紹介で取り上げていただいている。その際、教室の成り立ちからその後の変遷を含め紹介させていただいた。今回は主にその後の10年の状況と今後の展望について報告する。

スタッフ

現教授の中島耕一、リプロダクションセンター教授の永尾光一はそれぞれ平成23年、平成21年に着任され、以後交代なく現在に至る。現在医療センター大森病院では両教授以下、准教授1名、講師2名、助教3名、シニアレジデント2名、レジデント5名、準修練医2名という構成である。関連病院へ出向中の医局員、大学院生を含めると医局員は30名弱となり、10年前と比較すると規模は大きくなっている。

現況

泌尿器科臨床において、この10年で大きな変化がいくつかあった。手術療法では平成24年に前立腺がんに対してのロボット支援手術が本邦では初めて保険承認された。ロボット支援手術は骨盤内や後腹膜腔など狭い術野での手術が多い泌尿器科悪性腫瘍手術にはとても適した術式であり、急速に普及した。当講座でも平成25年よりロボット支援前立腺全摘除術を開始し、現在では腎細胞がん、膀胱がんなどに対する手術を含め年間100例程度を施行している。通常の腹腔鏡手術と同じくロボット手術も専門医取得後の早い段階から術者の育成を行っている。

薬物療法では腎細胞がんに対する免疫チェックポイント阻害剤と、去勢抵抗性前立腺がんに対するPARP阻害剤の登場がある。免疫チェックポイント阻害剤はその効果の一方で多岐にわたる免疫関連の有害事象を生じる場合があ



前列 左から
青木助教 小林准教授 山辺講師 永尾教授 中島教授 三井講師 笠原助教

り、これに対しては他診療科と連携し診療にあたっている。PARP阻害剤はコンパニオン診断としてBRCA遺伝子変異検査を行ったうえで使用するもので、泌尿器科領域でもがんゲノム医療が本格的に始まった。大森病院ではがんゲノム医療連携病院として近隣の病院からの検査、診断、治療依頼を受け入れており、大川医師を中心に遺伝診療部と連携し、遺伝カウンセリングも含めて対応可能な態勢を整えている。

当講座の特徴の一つであるリプロダクションセンターでの不妊症診療にも継続して力をいれており、泌尿器科専門医取得後に当センターで生殖医療の研修を希望するスタッフも多い。

令和3年には永尾教授、中島教授、形成外科荻野教授を中心に尿道狭窄症に対する治療を行う尿路再建センターが設立された。難治性症例も広く受け入れ診療にあたっており、口腔粘膜移植を用いた尿道再建まで施行可能な数少ない施設となっている。

研究面では三井講師を中心にがん免疫に関する研究や、

尿路結石治療に関する他施設共同研究などが進んでおり、若手医師への研究指導も充実している。

またこの数年、大森病院腎センターとの連携を強くしており、カンファレンスへの参加や診療の連携のみならず、数か月から年単位での研修も可能となっている。腎移植や透析治療などの腎代替療法についての研修機会ができたことで、専攻医プログラムとしても充実が図られた。

展 望

24時間、365日泌尿器科医が常駐し救急対応が可能な病院は大田区内では当院だけである。地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん診療を行い、尿路結石や排尿障害といった良性疾患に関しても広く受け入れ地域医療に貢献できるよう尽力していきたい。そのためには何よりも人材の確保が重要と考えており、スタッフの働きやすい環境を整え、診療体制を維持していきたいと考えている。

(山辺史人)

DOI : 10.14994/tohoigaku.2022-052